第 1 表

	Apodemus No. 1	Apodemus No. 2	Microtus	Urotrichus No. 1	計
<i>T. kuroshio</i> Sasa et Kawashima, 1951	11	5	1		17
<i>T. fuji</i> Kuwata, Berge et Philip, 1950	33	/	2	3	38
<i>T. tenjin</i> Sasa, Hayashi, Kumada et Miura, 1951?	/	/	/	1	1
<i>T. kitasatoi</i> Hukusumi et Obata 1951	44	1	22	1	68
<i>T. himizu</i> Sasa, Kumada, Enomoto, Fukuzumi, et Obata	/	1	1		2
<i>Gahrlepiea</i> sp.	1	/	/	/	1
計	89	7	26	5	127

1950 (フジツツガムシ), *T. himizu* Sasa, Kumada, Enomoto, Fukuzumi et Obata (ヒミズツツガムシ), *Gahrlepiea* (ガールリピア) 及び *T. tenjin* Sasa, Hayashi, Kumada et Miura, 1951 (テンジンツツガムシ) *T. kitasatoi* Hukusumi et Obata 1951 に類似するものを得た。

考按: 以上の成績を得たが, *T. tenjin*, *T. kitasatoi* と類似したものは佐々博士に同定を御願ひしたが, *T. tenjin* に似ているが稍々背甲板の AP が短いこと, 感覚毛の分枝が少いこと, 後側毛や体背面剛毛の側枝の数が少く, 長いことが模式標本と違うが, 他のいろんな点でやはり *T. tenjin* に最も近似して居り, *T. kitasatoi* としたものは背甲板は *T. kitasatoi* に一致するが背面剛毛の第3列以下の数が *T. kitasatoi* より多く, 尙お検討の要があると云う意見であつた。

結言: 以上私は昨年11月雲仙で採集した恙虫6種について簡単に報告した。 [九大第一内科]

伊豆諸島の恙虫及びその七島熱との関係についての疫学的考察

佐々 学・林滋生・加納六郎・熊田信夫

Sasa, M., Hayashi, S., Kano, R. & Kumada, N.: Tsutsugamushi of Izu Islands and their epidemiological study

1948年7月に、佐々、加納が八丈島の小島に於て、人をはげしく襲う所謂赤虫が、恙虫の一種 *Trombicula wichmanni* である事を見出して以来、我々は数回にわたり八丈地方の恙虫を調査して来た。その折に同地方で俗に八丈デング(今日でいう七島熱)と称して、冬期に多数発生する急性の熱性疾患で、発疹、皮膚の限局性壊死集(刺口)が認められる流行病がある事を知り、恙虫病の疑

をもつて予備調査をしていた。1951年12月本病流行の最盛期に、傳研第五研究部、医局からの参加を得て、東京都府予防課、東京都衛生研究所、国立予防衛生研究所、北里研究所等と合同して八丈島に調査に赴き、疫学班、臨床班、病毒班との協力の上、本病が恙虫病の一種である事を確認した。同じ頃、大島、三宅島にも調査に赴き、恙虫に関する知見も大いに加わつた。我々の所で、伊豆諸島中、八丈島及びその小島と青ガ島、又大島並びに三宅島等にて現在まで11回の調査を行つた結果、人、犬、猫、ドブネズミ、クマネズミ、アカネズミ、ホンドリハツカネズミ、ニワトリ、アカコッコ、その他野鳥24種の多数の検索で、*Tr. wichmanni*, *Tr. scutellaris*, *Tr. burnsi*, *Tr. fuji*, *Tr. kitasatoi*, *Tr. pallida*, *Tr. tamiyai*, *Tr. japonica*, *Neoschöngastia posekanyii*, *Neoschöngastia* spp., *Gahrlepiea* sp. の3属12種、5000疋あまりの恙虫を得ている。これらの恙虫は、分布、宿主との関係、季節消長等に夫々興味ある特徴をもつ事が判明したが、こゝには最も多数に採集され、人との関係も深いと思われる2種について述べる。*Tr. wichmanni* は人をはげしく襲う点で注目すべきである。八丈島と小島の一部に限局して、夏期に幼虫が夥しく発生し、人の他、犬、猫、ニワトリ、アカコッコ、ネズミに多数吸着する。広い宿主選択性を有するが、発生時期と分布の点で七島熱との関係はつけられない。今のところ人を襲つて痛がゆみを与える直接的な害にとどまるようである。*Tr. scutellaris* は、同じくネズミの他、犬、猫、ニワトリ、各種野鳥から見出され、広い宿主選択性を有する。今回は遭遇しなかつたが、人に吸着している可能性は頗る大きい。形態上も日本海沿岸で恙虫病を媒介している *Tr. akamushi* に極めて近い種類である。その生態は先の *Tr. wichmanni* と対蹠的で、冬期に極めて産卵し、その分布も非常に普遍的で、調査した各島で、人家並び

にその周囲の石垣, 畑, 山林, 沢等殆んど何処でも採集出来る状態である。八丈島では七島熱の最流行期には本種以外の恙虫は採集出来なかつた。本種の季節消長及び分布は, 七島熱のそれに極めてよく一致し, その他の生態から見ても *Tr. scutellaris* としてここに述べた本種は, 七島熱の媒介者として誤りなきものとする。

〔傳研衛生動物〕

日本産恙虫の分類, 分布, ならびに疫学的考察 佐々学

Sasa, M.: Taxonomy, distribution and epidemiological relationship of Tsutsugamushi of Japan

これまで日本各地から採集された恙虫の種類は6属31種であり(表参照), そのうち我々関係者で発見されたものは18新種, 2新記録種である。これらは何れも最初幼虫として野鼠, 野鳥などから採集され, 分類学的検討も幼虫として行われているが, 研究室内の飼育によつてこのうち14種の若ダニ(ニンプ)と9種の成虫と2種の卵がえられている。これらのうち本州からは5属20種, 四国からは11種, 九州から10種, 北海道からは4種が, 記録されている。主要な恙虫のうち *T. akamushi* は北日本河川洪水地帯の恙虫病有毒地域のみから見出され, *T. wichmanni* は八丈地方と黒島地方にのみ認められ, 日本の山林に最も普通に全般的に発生している種類としては *T. fuji*, *T. pallida*, *T. kitasatoi* などがあげられる。また *Neotrombicula* 亜属に属する *T. japonica* も全国的に普通である。その他の種類については今日までのところ採集地が限局されている。季節的には多くの種類は秋から冬, 春にかけて幼虫が多数発生し, 夏は一般の山林では野鼠に附着する恙虫数も種類も極めて貧弱である。但し北日本有毒地の *T. akamushi*, 富士山中地方の *T. nagayoi*, 八丈地方の *T. wichmanni* は夏に多く, 冬には全く見られぬ種類である。以上の恙虫のうち *Trombicula* 属, *Gahrlepiea* 属, *Euschöngastia* 属の大多数の種類は野鼠(山林でアカネズミ, 草原ではハタネズミ, 島嶼の畑地ではドブネズミが主)より採集されているが, *Walchia ogatai* と *T. yasuo-kai* はモグラより, *T. himizu*, *T. tenjin*, *T. miyairii* などは専らヒミズより採集され, *Neoschöngastia* 属はすべて鳥よりである。広義の恙虫病の新流行地として高知縣(*T. tosa*が媒介者らしい)伊豆七島(*T. scutellaris*

が媒介者らしい)が前年度の研究で追加された。

日本産恙虫の種類と各期の確認した記録表
(1952年3月)

日本産恙虫の種類	幼虫	蛹	成虫	卵
1. <i>Trombicula akamushi</i>	+	+	+	+
2. <i>Trombicula pallida</i>	+	+	+	
3. <i>Trombicula palpalis</i>	+	+		
4. <i>Trombicula intermedia</i>	+	+	+	+
5. <i>Trombicula scutellaris</i>	+	+		
6. <i>Trombicula japonica</i>	+			
7. <i>Trombicula wichmanni</i>	+	+	+	
8. <i>Gahrlepiea</i> sp.	+	+		
9. <i>Trombicula fuji</i>	+	+	+	
10. <i>Trombicula tamiyai</i>	+			
11. <i>Trombicula burnsi</i>	+			
12. <i>Trombicula mitamurai</i>	+			
13. <i>Trombicula nagayoi</i>	+			
14. <i>Trombicula kitasatoi</i>	+	+	+	
15. <i>Trombicula miyajimai</i>	+	+		
16. <i>Trombicula tenjin</i>	+		+	
17. <i>Trombicula miyazakii</i>	+	+		
18. <i>Euschöngastia ikaoensis</i>	+			
19. <i>Walchia ogatai</i>	+			
20. <i>Trombicula himizu</i>	+			
21. <i>Neoschöngastia posekanyii</i>	+			
22. <i>Euschöngastia miyagawai</i>	+			
23. <i>Trombicula teramura</i>	+	+	+	
24. <i>Trombicula tosa</i>	+	+	+	
25. <i>Trombicula kuroshio</i>	+			
26. <i>Trombicula murotoensis</i>	+			
27. <i>Trombicula yasuo-kai</i>	+			
28. <i>Trombicula tanaka-ryoi</i>	+			
29. <i>Trombicula miyairii</i>	+			
30. <i>Dolisia okabei</i>	+	+		
31. <i>Trombicula</i> (<i>Miyatrombicula</i>) <i>kochiensis</i>	+			

〔傳研衛生動物〕

ダニ類に対する殺虫剤の効力, 特にコナダニ及びツツガムシについて

鈴木 猛・本庄サクラ

Suzuki, T. & Honjo, S.: Effect of various insecticides on trombiculid and acarid mites

〔傳研衛生動物〕